



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>



2024年
12月号
2024. 12. 21 発行
第 272 号

あたらしい なかまをしょうかい します



グエン ミン ハイ
(フィリピン)



ミカド チアゴ
(ブラジル)



フェリパ ミカド
パウラ クリスチーナ
(ブラジル)

中川先生のへんてこ日本語

170

今何時ですか



「電気料金を安くする」とかいう会社から、夜9時ごろに固定電話に電話がかかってきた。「今何時ですか」と聞いたたら、「9時前です」と言う。問題なのは、夜こんな時間にセールス電話をかけてきたこともさることながら、こちらの叱責や怒りに無頓着であったことである。詫びを述べるでもなく話を続けようとするので、無然として電話を切った。しかも周囲がざわついていて、うまく聞き取れない。どうやら室外で携帯から電話をかけているようである。

この行為を大学学部 of 学生に評価させたところ、「殊に失礼だとは思わない」と回答した学生が半数以上いた。夜9時は、遅い時間だとは思わないようである。

家族や友達の携帯に緊急連絡をしているのならまだしも、夜のくつろぎ時間を邪魔するのは無礼だ。筆者なら昼間の時間であっても、電話をかけるのははばかりともある。個々人が携帯電話を所有するようになり、周囲の状況に目が向かなくなってしまうている。

対面でコミュニケーションを取る機会が薄れ、相手の顔色から「言外の意味」が読み取れない人の増えているのは、コミュニケーション能力が薄れているからに他ならない。

レポートの提出締め切りから3日遅れて、レポートを提出しに来た学生がいた。「今日は何日ですか」の問いに、「〇月×日です」。「急いで出さなくても、来年でよかったのにな」と言いたくなる。

コミュニケーションとは、あくまでも「対人」場面が基本で、双方向性がある。相手の出方を窺って、こちらも言葉を選ぶ。だからこそコミュニケーションの楽しさでもあるが、私なら、電気代が高くなっても、コミュニケーションの楽しさを味わいたい。ところで今何時かな。

京都外国語大学日本語学科教授 中川良雄



路線バスでGO! 琵琶湖博物館へ～11月17日



今年の秋の遠足は貸切バスを使わず路線バスで琵琶湖博物館へ。その気軽さからか集合時間に間に合わないグループがいくつかあって、結局参加者は学習者さん9名、スタッフ6名のこじんまりした遠足でした。でも、心配された雨も降らず、寒さもそれほどでなく、穏やかな日でした。

びわ湖の自然、歴史、人々の暮らしと、展示内容は外国の方には少し難しかったかなと思いましたが、みんな隅々まで展示を楽しんでいました。用意したクイズにも熱心に取り組んでくれました。古い家屋の展示を見て、「これ、自分の国の家と似ています。」と言う人も。そういえば、昔の人力灌漑施設の展示の横にひっそりと置いてあったクボタの発動機。「これ、ベトナムにも同じのがあります！」とベトナムの写真を見せてくれる人も。こんなところで感動してくれるんだ。(でもなぜベトナムの発動機の写真持ってるんだろう?)

お昼ご飯は屋上の休憩コーナーに集まって食べました。午後は水族館を見たり、外にでて景色を見たりディスカバリールームに入ったりと、それぞれのんびり過ごしました。帰りの集合で、クイズの参加者にプレゼントを渡し(全員ですけど)、バスに乗って帰途につきました。



参加人数の少ないのがむしろ幸いた面も。同じ国の人だけでなく、いろんな国の人といっしょに館内を回ったり、おしゃべりしたり。もちろん、媒介語は日本語です。「ミャンマーのお金は高いですか?(為替レート?インフレ率?)」「ううん、安いですよ。インドネシアは?」「最近、高いですよ!困ります。」(それ円安のせい?)

いつもはスタッフも学習者さんも、自分の勉強するグループ以外の人と話す機会も少ないけれど、遠足は数少ない交流の機会ですね。という感じで、それぞれに、のんびり過ごせた秋の一日でした。(フクイ)



先生たちのリレーエッセイ 片山 健

「あっ、そうだ」と、5年間ほど遠ざかっていた『彦根シティマラソン（10キロ）』*1にエントリーしたのが、今年の8月31日。『オーブ』を初めて訪問させていただいた日でした。5月に58歳を迎え、いつもと同じ「ゆるーい」週末を過ごしていたときのこと、愛知県の友人から「ミラクルが起きた！日本語学校の講師として、〇〇日本語学校の校長から依頼を受けた」とラインが。彼は、私の1学年下の57歳。大手電線メーカーを昨年、早期退職し、仕事の傍ら長年コツコツ勉強してきた日本語学校の講師の職を得ることができたとの吉報でした。単純な私は「予想通り」彼に触発されることとなり、「日本語教室のお手伝い」に「マラソン大会」にと、その日のうちに、自身にミッションを課してしまっただけでした。



以降、毎日の会社の往復（5キロ）は徒歩、帰宅後1時間は、日本語教師養成課程の通信講座、週末は大学の科目履修と10キロのジョギング、そしてエネルギーの源である『オーブ』、とて



も充実した日々を送れるようになりました（感謝）。今のところ、どのミッションも続いています。脳トレ、健康維持、社会貢献の観点からも「できるだけ」いや、「生涯続けていければなあ」と思っています。

さて、『彦根シティマラソン』の結果*2ですが、目標の1時間以内での完走は惜しくも達成できず、来年に持ち越しとなりました。『オーブ』においても、恩地さんや先生方、生徒さんに教えていただくことが大変多く、毎週末がとても楽しみです。みなさん、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。（片山）

*1 『第38回彦根シティマラソン』2024年11月10日（日）開催

※写真は、当日スタート地点で選手を見守るひこにゃん（出所：runnet ホームページより） *2 投稿者本人と完走証



オーブ30周年記念 OGからのメッセージ

オーブ30周年おめでとうございます。

私がオーブに参加していたのは十数年前になります。日本語を教える仕事がしたいと思い、会社に勤めながら、養成講座を受講しているときでした。その後、思いきって会社をやめ、日本語教育に携わるようになり、今は、大学の留学生別科で、進学を目的として学んでいる留学生に日本語を教えています。私の日本語教師デビューはオーブということになりますが、うまく教えることができず落ち込んだり、思わぬ質問にあたふたしていたような思い出ばかりです。日本語教師になり、十数年たった今でも、試行錯誤の毎日ですが、オーブとの出会い、経験のおかげで、毎日楽しいと思える仕事できています。



日本語教師になり、初めて海外で生活していた際、言いたいことがうまく伝えられない苦労や寂しさとは異なる孤独な気持ちを経験しました。自分が「外国人」になり、日本で生活している外国人の方々の気持ちが少しはわかったように思いました。そのときに、オーブのような場所があったらいいのになあと思ったことがあります。学校や職場以外に、日本の社会とのつながりがあるということはとても大きなことだと思います。草津にはオーブがあって、毎週土曜日に日本語を学んだり、教えたりしている場所があると考えるだけで、なぜかあたたかい気持ちになります。これからも40周年、50周年とオーブの活動が未永く続いていくことを応援しています。 葛城 真奈



先月の活動 (11月)

日本語教室 11/9(M), 16, 23, 30(4回)

11/6(水)秋の遠足下見 (内田栄、福井)

11/17(日)秋の遠足 琵琶湖博物館

11/30(土)新春イベント打ち合わせ

(小春、豊村、永井、西垣紀、西垣雅、福井)

11/30(土)ひとまちキラリ公開プレゼンテーション参加 (内田栄)



今月の活動 (12月)

日本語教室 12/7(M), 14, 21 (3回)

12/14(土)新春イベント打ち合わせ (全員)



●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(11月)

	11/9	11/16	11/23	11/30
学習者	36	30	20	11
スタッフ	24	25	22	19

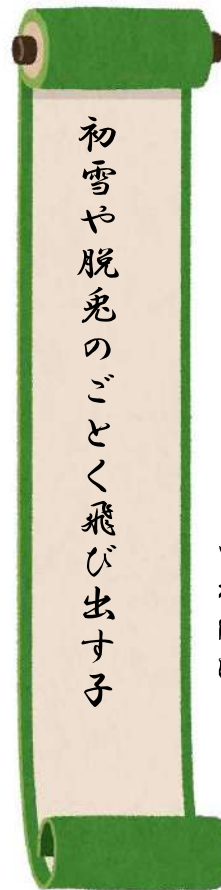


会員の動き(11月)

〈入会〉なし
 〈休会〉なし
 〈退会〉なし
 〈賛助会員〉なし

秋の遠足参加者の声をいくつか紹介します↓

- はじめてです。ふるいテレビあるし、いろいろなふるいきかみるのはだいです。たのしみます。ムタキン アグス(インドネシア)
- 歴史博物館に足を踏み入れた時、先史時代から現在までの琵琶湖の歴史全体の流れを再現する何万点もの貴重な文書や工芸品が納められた、無限の知識の宝庫に迷い込んだような気分になりました。骨董品や歴史的証拠を鑑賞すると、私は時代を超えた琵琶湖文化の豊かさをより深く感じます。ブイ ヴァン チャム(ベトナム)
- オリーブから案内してくれる遠足は滋賀県でとても有名なところだと元々から聞いたことがありました。行ったことがないですが、とても行きたいところです。今日はオリーブのおかげさまで行ったことがあります。(になりました)とても楽しくて、見たことがない動物と聞いたことがない色んな歴史を勉強になりました。皆様本当にありがとうございました。ススサン(ミャンマー)
- 草津に永年住んでいながら、琵琶湖博物館へ入るのは初めてでした。自然や生物に興味がある人には面白く、楽しめる展示内容だと思いました。無料で日曜日ということもあり、主に家族連れでにぎわっていました。豊村信良(日本)
- 今日オリーブの遠足《琵琶湖博物館》で A,B,C,D,E 展示室の湖と私たちと暮らし～体感しました。深いつながりこそが「びわこのちから」の源です。琵琶湖は 400 万年の昔に誕生し、さまざまな変化をとげながら今にいたっています。長い歴史の中で生き物も人も琵琶湖とともに生きてきました。日本で一番大きい古代湖・琵琶湖のちから確かに体感した。感動しました。中川智絵(中国)



ケンジさんの俳句十二月 (師走)

中村健浩



編集後記：お待たせしました。12月号やっと編集おわりました。忙しかったせいか異常気候のせい、星回りのせいか体調が整わない1年でしたが、来年はきっといいことあるさ、と希望を持って1年をおわりたいと思います。皆さんの来る年にも福が訪れますように。(MO)

